

## Q. 豊山ふるさと大使の創設を

### A. あり方を含め検討する

水野 晃 議員



**Q** 小学生・中学生を対象にした「ふるさと大使」の創設を、どう考えるか。

大使には豊山のPRや町おこしにも協力してい

ただくものである。豊山町には自慢できるものがない。

「豊山ふるさと大使」

は、子どもたちの目線による豊山の持つ新しい発見に期待が寄せられる。

力強い味方になると思う。また、子どもたちの夢を語ってもらう良い機会になると思う。

「ふるさと大使」には、町主催の各種催事に留まらず、地元のイベントなどでPRしてもらったり、

夢を語ってもらう。町発展のため、安心安全の町づくりのためにも、そんな「ふるさと大使」の誕生を強く願うものである。

**A** 町の観光施設や特産物のPRを推

進していくことは、地域振興の観点から重要である。また、町のPRを、

町民にお手伝いいただくことは、地域の魅力を再発見し、郷土を愛する気持を一層深めるために

も、高い価値がある。

その一方で、ふるさと大使には、町に関する深い知識や見識、それに対

するプレゼンテーション能力などが必要となる。これらを、子供達に求めることは、大きな負担となることも考えられる。また、小学生・中学生の未成年者に対して、ふるさと大使という公職に就かせる事についても、その法的要件を含め検討の余地がある。

これらを踏まえ、町の魅力を高め、それをPRするために、どう住民に携わっていただくのか、ふるさと大使のあり方を含めて、検討していく。

